

シラバス一覧

livecampus

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

戻る

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名				主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-B6 現代の教養	20140586019701	●現代の教養 Ⅰ(文化と社 会)	和	E		勝俣 隆	1年,2年,3年,4年	後期	木 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-B6 現代の教養	20140586020101	●現代の教養 Ⅰ(自然の科 学)	和	E		赤羽 良 一	1年,2年,3年,4年	後期	金 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-B6 現代の教養	20140586020501	●現代の教養 Ⅰ(芸術の世 界)	和	E		三上 次 郎	1年,2年,3年,4年	後期	木 1	～

戻る



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B6 現代の教養**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586019701	科目番号	05860197
授業科目名	●現代の教養Ⅰ(文化と社会)		
編集担当教員	勝俣 隆		
授業担当教員名(科目責任者)	勝俣 隆		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝俣 隆,飯塚 知敬,福留 真紀		
科目分類	全学モジュールⅠ 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	医学部,歯学部,工学部,環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	katumata@,iizuka@.fukutome@		
担当教員研究室	教育学部 6 5 3（勝俣）, 6 1 0(飯塚), 6 1 4(福留)		
担当教員TEL	2299(勝俣)、2313（飯塚）、2312（福留）		
担当教員オフィスアワー	各教員室のドアの掲示参照		
授業の概要及び位置づけ	人文科学を代表する文学・哲学・歴史学を専門とする3名が、それぞれの専門分野について、現代の教養として、必要な知識と能力、ものの見方、考え方等について、分かり易く解説し、受講者と共に考える授業を目指す。具体的には、日本の古典文学、西洋の哲学・倫理学、日本の歴史について、具体的な事例を基に解説し、受講者自身が考え、教員との質疑応答を通して、より深い理解に達することを目標とする。どの分野の講義についても、主体的に取り組んで、大学で学ぶものとしての要求される最低限の生きる教養を身に付けて欲しい。		
授業到達目標	文学・哲学・歴史学の各分野において、担当者が用意した文字資料・画像資料等をほぼ正しく理解し、また、それらの資料から、自分自身が判断し、独自のものの見方を身に付けることを授業到達目標とする。例えば、文学の場合であれば、日本の文学の世界における意味が分かり、その代表的な作品の具体的内容を理解し、文学と社会の関係について、その仕組みを理解できるということが最低限の到達目標であり、その上で、さらに、各自が、こうした見方も出来るのではないかとことまで考えることを最終的な目標としたい。高校までの暗記の学問ではなく、大学では、自分で考え、疑問に思ったことを調べたり考えたりして解決していくのだという主体的な取り組みが出来ることを目指す。		
授業方法（学習指導法）	文学・哲学・歴史学のそれぞれの担当者が用意したプリントや画像資料、パワーポイント等を利用して、具体的な事例に基づいて解説し、受講者は、その具体例と解説に基づいて考え、各自の判断と意見を持つことを目指す。受講者は、それぞれの担当者の指示に適切に従って受講されたい。出席は、それぞれの担当者の方法によるが、人数数なので、基本的に、小レポートのような形で各自の意見・質問等を毎時の終わりに書いてもらい、出席を確認する。併せて、その小レポートの内容については、次回に、担当者がコメントする形を取る。但し、その具体的方法は、各担当者の方針で、変化があり得る。また、それぞれの担当者は5回 ずつの講義を行い、5回目の講義の一部を使い、試験を実施する。		
	1,勝俣担当 ガイダンス及び、日本の文学の特色について 2, 勝俣担当 上代の具体的作品の読解と鑑賞、その謎を解く 3, 勝俣担当 中古の具体的作品の読解と鑑賞、その謎を解く 4, 勝俣担当 中世・近世の作品の読解と鑑賞、その謎を解く		

授業内容	5, 勝俣担当 近代の作品と社会。及び試験。 6, 飯塚担当 哲学のはじまりとギリシア思想 7, 飯塚担当 中世の宗教と思想 8, 飯塚担当 近代の科学と思想 9, 飯塚担当 現代の社会と思想 10, 飯塚担当 まとめと試験 11, 福留担当 「鎖国」とは何か 12, 福留担当 肖像画の世界（1） 13, 福留担当 肖像画の世界（2） 14, 福留担当 「武士」とは何か 15, 福留担当 江戸時代の裁判。及び、試験。
キーワード	日本古典文学入門 謎解き 西洋哲学・倫理学史入門 時代背景 日本史入門 資料読解 真相探求
教科書・教材・参考書	勝俣隆『星座で読み解く日本神話』（大修館書店）、『異郷訪問譚来訪譚の研究―上代日本文学編―』（和泉書院） 飯塚知敬『哲学の歴史』（中央公論新社）、『西洋哲学史』（ミネルヴァ書房） 福留真紀『徳川将軍側近の研究』（校倉書房）、『名門譜代大名・酒井忠孝の奮闘』（角川学芸出版）
成績評価の方法・基準等	授業への積極的参加 2割 授業内容の主体的理解と応用 2割 小レポートによる思考力の判定 2割 試験による理解度の判定 4割
受講要件（履修条件）	文学・哲学・歴史学に関心があり、主体的に努力する意志のあること。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	文学・哲学・歴史学に関する図書を沢山読んで欲しい。





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B6 現代の教養**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586020101	科目番号	05860201
授業科目名	●現代の教養Ⅰ(自然の科学)		
編集担当教員	赤羽 良一		
授業担当教員名(科目責任者)	赤羽 良一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	赤羽 良一		
科目分類	全学モジュールⅠ 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	医学部、歯学部、工学部、環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	akaba@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	407号室（赤羽良一研究室）		
担当教員TEL	095-819-2334		
担当教員オフィスアワー	水曜日16時～18時（あるいは約束によります。）		
授業の概要及び位置づけ	生命の維持に不可欠な酸素（分子状酸素）ならびに化学反応に関与するフリーラジカルについて学ぶ。世界は分子で構成されており、酸素は分子にさまざまな仕方 で関与する。また、フリーラジカルは、広く物質変換や生体内および地球環境における化学反応に関与する重要な化学種である。この授業は、酸素とフリーラジカルを題材として、「自然」について考える切り口を提供するとともに、それが、今後の学習の展開に役立つような、そのような授業であることをめざしている。		
授業到達目標	1) 分子状酸素の基本的性質について説明できること。2) 生体内や地球環境も含めた系での物質変換における酸素およびフリーラジカルに関与する化学反応について、例をあげて説明できること。3) 酸素やフリーラジカルの反応の理解に必要な基本的有機分子の構造と性質について説明できること。4) 1)～3)の 学習をする過程で、大学で自ら学ぶ力を培い、それをレポート作成等において示せること。		
授業方法（学習指導法）	講義形式で行う。黒板を使用するほか、パワーポイントを使用することを考えている。授業外の学習時間を学生各自が確保し、主体的に学習できるように、フリーラジカルと酸素の関与する反応等について課題を出す。		
	回	内容	
	1	自然界における酸素とフリーラジカル：なぜ酸素とフリーラジカルなのか。	
	2	酸素と反応する有機化合物の基礎知識（1）	
	3	酸素と反応する有機化合物の基礎知識（2）	
	4	酸素の化学（1）：その特性、三重項酸素と一重項酸素	
	5	酸素の化学（2）：有用性と毒性を中心に	
	6	フリーラジカルとは何か	
	7	フリーラジカルと有機化合物の反応	

授業内容	8	生体内のフリーラジカルと活性酸素（１）
	9	生体内のフリーラジカルと活性酸素（２）
	10	物質と酸素の相互作用：物質の生産と劣化
	11	物質と酸素の相互作用：光の関与
	12	生物と酸素
	13	地球環境と酸素、そしてフリーラジカル
	14	酸素とフリーラジカルの化学の最近の話題
	15	まとめ
	16	期末試験
キーワード	酸素、フリーラジカル、活性酸素、光	
教科書・教材・参考書	授業時に参考図書および文献リストを配布する。	
成績評価の方法・基準等	小テスト（遅くとも一週間前に連絡）（２０％）、レポートの内容（３０％）および定期試験の成績（５０％）で評価する。	
受講要件（履修条件）	授業開始までに、化学全般について、授業および授業以外の自主学習で、関係図書等で酸素や有機化合物について学んでおくことが望ましい。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	自然界の物質、生命、環境、すべてに関わる酸素とフリーラジカルの化学を、これからの専門の学習の展開につなげていってください。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B6 現代の教養**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586020501	科目番号	05860205
授業科目名	●現代の教養Ⅰ(芸術の世界)		
編集担当教員	三上 次郎		
授業担当教員名(科目責任者)	三上 次郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三上 次郎		
科目分類	全学モジュールⅠ 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	mikami@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部音楽棟 3階		
担当教員TEL	095-819-2344		
担当教員オフィスアワー	火曜日 3限		
授業の概要及び位置づけ	音楽の歴史や作品を知り人口に膾炙する作品に触れることで教養の育成を図る。		
授業到達目標	ルネサンス期からの音楽史の流れを理解し、作品に触れ理解を深める。		
授業方法（学習指導法）	講義、鑑賞、課題の解答		
授業内容	回	内容	
	1	芸術の定義とルネサンスの音楽	
	2	ルネサンスからバロックの時代へ	
	3	バロックの音楽	
	4	バッハの生涯と作品	
	5	バロックから前期古典派へ	
	6	古典派中期の音楽	
	7	ベートーベンの生涯と作品	
	8	前期ロマン派の音楽	
	9	中期ロマン派の音楽と作曲家たち（1）	
	10	中期ロマン派の音楽と作曲家たち（2）	
	11	後期ロマン派の音楽と作曲家たち（1）	
	12	後期ロマン派の音楽と作曲家たち（2）	
	13	近代音楽について	
	14	近代音楽と現代音楽	

	15	現代音楽の世界
	16	まとめ
キーワード	音楽史、音楽理論	
教科書・教材・参考書	「西洋音楽概説」門馬直美著春秋社	
成績評価の方法・基準等	毎回テストを行い、その累計で評価する。1500点を満点として換算する。	
受講要件（履修条件）	特に受講の要件はないが、毎回試験を行うので、そのつもりでいること。 また、LACSを使用し試験をするので、コンピューター必携とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	毎回の授業でLacsを使用し、試験を行うので、パソコンを必ず持参すること。授業中に解答ができない場合は得点できないので注意すること。特に、機械のトラブルやネットのトラブルに関しては一切関知しないので、そのつもりで登録すること。	

